

あいさつは元気の源

香芝市立香芝東中学校 1年 笹口 悠真

僕にとって、あいさつは元気の源です。朝起きて、家族と「おはよう」とあいさつを交わします。今日も一日が、始まったと実感します。出発するときは、母に元気に「行ってきます」と大きな声で伝えます。

通学途中に、祖父母の家の横を通ります。窓から祖父母が顔を出して「行ってらっしゃい」「行ってきます」のやりとりを小学生の時から、毎朝続けています。いつも僕が通る時間を、見計らって待っていてくれます。ごくたまに、祖父が寝坊して見送りがない時は、どうしたのかな？大丈夫かなと心配になります。

卒業した小学校の周辺では、先生が僕に気がついて力強く手を振ってくれました。新しく就任した校長先生は、ある日僕に自己紹介をしてくれました。突然の出来事で驚いたが、嬉しかったです。

僕は、小学校の地域見守りボランティアの方とのあいさつと一声交わす事が、毎日の楽しみです。あいさつを通して、僕のことを覚えてくれました。僕も見守りボランティアの方の名前を覚えることが出来ました。

中学校に着くと毎朝校門前に、校長先生が立っています。中学校までの道のりがとても長いので、校長先生の顔を見るとほっとします。

5月に、祖父母のお葬式参列のため、三日間中学校を休むと親から聞いた時は、校長先生が心配しないか？と心配になりました。そのことを母に伝えると「僕は元気です。心配しないでね。」とお手紙を書いて中学校のポスト入れといたら？と言われました。僕は、手紙を書くのが苦手だったので、出来ませんでした。その話を父は、ポストに手紙を入れたら伝説になるぞ。と言って笑っていました。

僕は、三年間父の仕事の為、転校を経験しました。人間関係を一から作る必要があり、一年目はクラスに、あまりなじめなかった気がします。そんな時、保護者や先生からあいさつをよく誉められました。3年目には、たくさんの人が僕の名前を覚えてくれて声をかけてくれるようになりました。色んな経験をしたけれど、いつも僕を気にかけてくれる人がいたのでさみしい思いをせずに、楽しく元気に過ごすことが出来ました。

今僕の住んでいる地域では、繋がりを大切にしています。高齢の一人暮らしの方もいるので、相手の様子がわかるように、回覧板なども相手の顔を見て渡します。

現在父は、自治会のボランティア活動に参加しています。週末介護にあり大変そうだが、頑張っている姿を見て応援したくなります。

母は、僕が小学生の時に、家庭科のエプロン作りでミシンのボランティアに来てくれました。家に、ミシンを持っていないのに来てくれました。母が小学生の時に、ハサミだけ左利きで、右利きのハサミで布を切れず困った経験をしました。同じように児童が、困らない様にと前日に、祖母にミシンを借りて練習をしてボランティアに来てくれました。

僕も、両親の姿を見て将来自分も誰かのために頑張りたいと思います。これからも僕の元気が届くあいさつを心掛けたいです。